

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子上中里保育園
施設所在地	東京都北区1-47-5
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

表現

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

リトミックなどの体を動かすことが好きな児や音楽遊びが好きな児が多い。パラバルーンを使用し、さらに体を動かす表現活動の充実を図るとともに、楽器遊びを取り入れ音楽での表現の充実を図ることをねらいにテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

【リトミック遊びを楽しむ】	7月オルガンの音に合わせてジャンプをしたり、ケンケンをしたり身体を動かして楽しむ。動きの中に「うさぎ」や「かえる」等生き物の動きを取り入れると、子どもから「次はダンゴムシになりたい!」「アゲハ蝶だよ!」と自分たちの興味のある生き物の動きをリクエストすることが増える。
【青虫やさなぎ、ちょうちょの動きを考えたり、音楽に合わせて楽しむ】	8月(5歳児) お部屋でちょうちょを飼育した経験や図鑑で調べたことをきっかけに子どもが数名で手を繋ぎ「さなぎみたい!」と保育者に話す姿や「こんなポーズできる!」と自分で考えた動きを子ども同士で見せあって楽しむ姿が増えた。
【魚を取り入れた遊び】	8月(4歳児) 海や魚の制作を通して、魚の種類や海の生き物に興味をもつ子どもが増えた。また、魚の等身大の大きさを記載した掲示物を見ると興味深く見つめている。その姿から魚を取り入れた「おさかなバスケット」や「魚のカードめくりゲーム」をクラス活動に取り入れていった。普段、集団活動に興味を示さない子どもも自分の好きな魚を取り入れたゲームということで自分から活動に参加する姿が見られた。
【好きなことを取り入れた運動会作り】	8月・9月運動会のテーマを「魚」と「虫」に設定する。5歳児は今までの経験を元に虫の動きや青虫の成長をテーマにした組体操を行なう。身体を使って「さなぎ」や「孵化」をどのように表現するか子どもと一緒に考えながら取り組んでいくと「みんな肩を組んで動いたら大きな青虫みたい。」「みんなで大きく手を繋いだらさなぎになる。」と子どもの意見をたくさん盛り込んだ組み立て体操になった。4歳児は今まで楽しんできたゲーム遊びをクラス競技や親子競技で楽しんだ。また、4、5歳合同競技としてパラバールンを使用し「海のお祭り」をイメージして表現した。
【楽器との出会い】	11月(5歳児) ピアノを習っている子どもが多く、日ごろ保育者が弾くオルガンを興味深く見つめていた。一人一台のピアノカを用意すると「きらきら星」や「ジングルベル」などの曲を自分一人で演奏したり、友だちと合わせて合奏する姿が見られた。楽器の扱い方を伝えながら、楽器の種類を増やし、室内に楽器コーナーを設定する。はじめは目新しい楽器のみを使う子どもが多かったが、次第にそれぞれの楽器の良さや面白さに気づき数名で色々な楽器を持ち寄って歌いながら演奏を楽しむ姿が見られた。
【保育園での合奏会】	12月(5歳児) クリスマス会で全園児が集まる際に年長児が合奏を披露する。曲を「ジングルベル」に決め、衣装作り等も楽しみながら準備を楽しんだ。自分のパートを責任をもって演奏する姿や友だちの音や様子を気にしながら取り組む姿が見られた。
【お楽しみ会にむけて】	1月(5歳児) 2月に行われるお楽しみ会で何をするかを子どもと相談する。クリスマスでみんなに披露した経験やみんなに喜んでもらった経験から「お家の人に楽器をすることを見てほしい」と意見が上がりクラスの演目を「音楽会」に決定する。曲決めを子どもと一緒にいき、どのパートでどの楽器を鳴らすか、どの楽器とどの楽器を組み合わせるか、子ども自身が考えて取り組んでいった。
【お楽しみ会】	2月(5歳児) お楽しみ会で合奏を披露する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

<ul style="list-style-type: none">・ バルーンを購入し、定期的にバルーン遊びができるようにした・ 楽器を購入し、いつでも楽器遊びができるようにした <p>(グロッケン、コンサートドラム、スネアドラム、木琴、アゴゴウッド、メロディオン、スズ、タンバリン等)</p>

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- 1, 音に合わせて体を動かしたり、体を使って表現することを楽しむ
- 2, バルーンや楽器を用意しみんなで表現することを楽しむ
- 3, 子ども自ら楽器を手に取り、演奏を楽しむ姿や自信をもって表現する姿が見られるようになる
- 4, 保護者や異年齢児の前で表現することに期待感や達成感を感じる

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

もともとリズム表現や表現遊びが好きな児が多く、バルーン活動・楽器遊びにも興味をもって意欲的に参加する姿が見られた。4歳児はまだ自分主体でバルーンや楽器に触れる児が多く自分が触れることが出来たら満足している様子が見られたが、みんなで一つの曲に合わせてバルーンを動かすことでみんなで一つの技ができたり、大きく膨らんだりする経験を重ねることで、みんなで一つのことに向かって協力することを楽しむことができたように思う。5歳児は最高学年ということもあり、自分たちよりも小さなお友達に見てもらうことに意識をむけて取り組む姿や保護者に披露する日を心待ちにしながら取り組む姿が見られた。また、5歳児には失敗してしまうことを恐れて遠慮がちになってしまう児もいたが様々な表現活動を通して、のびのびと表現することを楽しむ姿がみられた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

4歳児は自分主体になりがちな児が多く、5歳児は消極的な児や自分の表現に自信がなさそうにする児の姿が見られた。今回の取り組みを経て、みんなで力を合わせて何かを表現する経験や表現したことを認めてもらう経験が多くできたように思う。活動を重ねるごとに自分の表現に自信をつけ楽しんで表現する姿や子ども同士で表現を楽しむ姿も増えていき子どもの心の成長を感じることができた。今後も表現活動を通して、のびのびと自分を表現して行ってほしい。